

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201252
法人名	NPO法人 ケア・サポート
事業所名	シーサイド
所在地	愛媛県今治市吉海町臥間46-2
自己評価作成日	平成24年2月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

介護する側・される側ではなく、人としての関わりを大切にしたい。利用者も職員も常に笑顔で、過ごせるようにしていきたい。地域に根付いた施設となるように、努力していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者が行ってきた行事ごとを大切に支援されており、お彼岸に、お墓参りすることは難しいようだが、「思いを馳せ」ながら、皆でおはぎを手作りされたり、お正月にはお鏡餅を作って、地域の風習等を教えていただきながら近くの札所にも供えられた。

事業所の活動は「一つのことをみんなで作りあげよう」という「職員参加型」で取り組んでおられる。手書きの「シーサイド新聞」は、写真やコメント、イラスト等、いろいろな職員がかかわりながら職員の気持ちを込めて作成されている。又、毎日の館内放送は職員が順番で担当されていて、職員は、ご自分の名前を紹介し、ラジオ体操の音楽を流したり、昼食・夕食のメニューを知らせ、ご自分が発信したいことを放送を通じて伝えるようになっている。月末には、併設施設が持ち回りで「笑い大使」となり、仮装等して各事業所を回り、利用者を笑わせるような取り組みをされている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等がサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

シーサイド

(ユニット名)

えがお

記入者(管理者)

氏名

菊川 孔子

評価完了日

24 年 2 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) フロアの良く見えるところに掲示して、いつでも見られるようにし、職員間での意識の統一に努めている。また、月に一回の全体ミーティングの時には、理念を復唱している。 (外部評価) 施設長は、事業所理念をもとに、「人生の先輩である利用者に寄りそう」ことの大切さや、利用者が「普通のことをふつうに」できるような支援を実践できるよう話しておられる。施設長は、開設当初から「大島の地域の方達のお役に立ちたい」という思いを持っておられ、これまで、地域との関係作りへの取り組みを「一つひとついねいに」積み重ねてこられている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 夏祭りの時には、学生ボランティアの参加を呼び掛け、地方祭の際には、地域の神輿に来ていただき、地域の方々と交流を行っている。また、日々の散歩時は、地域の方々から、親しく声をかけていただいている。 (外部評価) 法人全体で地域との関係作りをすすめておられ、地域の方達だけでは難くなった近くの札所の掃除や、島四国の際のお接待を継続して行っておられ、地域の方達や参拝者に喜ばれている。恒例となっている法人主催の夏祭りは、年々参加者が増え、今では地域の方達から先に手伝いを申し出てもらえるようになったようだ。	施設長は、事業所の役割として、市や地域包括支援センターと相談しながら、今後、大島の地域の方達に、さらに介護保険や医療保険等の新しい情報や便利な情報を知らせていきたいと考えておられる。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 毎月定期的に、近隣の札所の清掃を行い、地域の人から感謝の言葉を頂いている。また、毎年島四国遍路市には、入居者と職員で、接待させていただき、参拝者に「おいしかったです」と喜んで頂き、嬉しく思っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	(自己評価)	(外部評価のみ)
			<p>二か月に一度の運営推進会議を行い、施設で行った行事や、利用者の日々の状況などを報告したり、サービス向上のため意見を頂いている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	(自己評価)	(外部評価のみ)
			<p>支所のメンバー以外にも、市役所からの訪問があり、意見を頂いている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	(自己評価)	(外部評価のみ)
			<p>施設内で行われる研修にて、身体拘束をしないケアについて、資料を基に勉強会を開き、職員間で話合うことで、意思統一に努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>利用者の中には、居室に閉じこもりがちになるようなこともあるが、職員は、利用者に寄り添い、共感することに心がけ、表情等も観察しながら、時間をかけて居間へ出て来られるように支援をされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内で行われる研修にて、勉強会を開催して学ぶことにより、職員間でも意思統一ができるよう、努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 受付に、パンフレットを常備し、いつでも、誰でも利用できるようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に、家族さんと話し合い、不安などがなくお聞きし、重要事項等で、十分に説明し、理解・納得していただいている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や、シーサイド新聞などで、近況をお伝えしている。受付には意見ボックスを設置し、サービスの向上に繋げるようにしている。また、年2回の家族会では、食事をしながらお話を伺っている。	
			(外部評価) 家族会時に、運営推進会議の内容について報告をされている。利用者の誕生会以外にも、行事ごとで出かけるような時には、ご家族もお誘いし、一緒に外出を楽しめるよう取り組まれている。遠方にお住まいのご家族へは電話で報告する等、コミュニケーションを図り、又、状態が不安定な時等には、「以前ご自宅では、どうだったか」ということを、ご家族にお聞きして情報収集されている。ご家族の来訪時、職員は利用者の様子を伝えたり、帰り際には、1階事務所から施設長が「気付いたことはないですか」と声をかけるようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティングの時や日常的な会話の中で、意見を出し、改善できる事等話し合い、前向きに検討している。	
			(外部評価)	
			事業所の活動は「一つのことをみんなで作りあげよう」という「職員参加型」で取り組んでおられる。手書きの「シーサイド新聞」は、写真やコメント、イラスト等、いろいろな職員がかかわりながら職員の気持ちを込めて作成されている。又、毎日の館内放送は職員が順番で担当されていて、職員は、ご自分の名前を紹介し、ラジオ体操の音楽を流したり、昼食・夕食のメニューを知らせ、ご自分が発信したいことを放送を通じて伝えるようになっている。利用者は放送に合わせてラジオ体操をされたり、職員の放送について感想を話してください。又、毎月のミーティング時には、法人内の全事業所職員が集まり、外部研修の報告をされたり、最後には施設長が選んだ詩を職員が朗読して、職員個々の感性等も磨く機会も作っておられる。施設長は、職員の気持ちの変化等を察知して、声をかけるようにされており、職員個々の「自分だからできること」を引き出し、自発的に活動できるよう動機づけをされている。月末には、併設施設が持ち回りで「笑い大使」となり、仮装等して各事業所を回り、利用者を笑わせるような取り組みをされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			全職員に研修参加の機会を作っている。利用者ごとに担当を決めたり、月行事を分担して計画を立て、皆で協力し、実施している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修内容を全職員に掲示し、参加できる機会を作っている。順次、資格を取る様に勉強会も行っている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			月に1回、法人内の事業所間で、合同ミーティングを開催し、研修を行っている。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所相談時、本人、家族を交えて面接し、情報収集を行い、入居までに職員間で共有できるように話合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所相談時、本人・家族を交えて面接し、情報収集を行い、入居までに職員間で共有できるように、話合っている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所時、本人・家族を交えての面接により、情報収集し、インフォーマルなサービスも含めて、対応している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者が自宅で生活を送っていた時と同じように、落ち着いた生活を送って頂けるよう、努めており、介護する側、される側でなく、もし自分だったら、家族だったらという思いで関わらせて頂くよう努めている。昔ながらの行事等は、利用者様に聞きながら、対等な関係作りに努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の意見を聞き、その人にとって、一番良い介護であるかを考えるように努めている。また、施設行事の際には、家族にも参加を呼び掛け、連携を図り、常により良い関係作りに努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出レクなどで、馴染みの場所へ行ったり、思い出話を聞かせていただいたり、利用者様ご自身で手紙を出したり、電話がかけられる様に支援している。 (外部評価) 利用者が行ってきた行事ごとを大切に支援されており、お彼岸に、お墓参りすることは難しいようだが、「思いを馳せ」ながら、皆でおはぎを手作りされたり、お正月にはお鏡餅を作って、地域の風習等を教えていただきながら近くの札所にも供えられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者が孤立しないよう、職員が見守りを行い、間に入り、声掛けや、会話の糸口を見つけることで、会話しやすいよう関わっている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院治療が必要となり、やむなく退所された場合でも、お見舞いをしたり、家族の相談にのらせていただいている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の表情や仕草を見て、気付いた事は職員間で共有している。また、面会時等には家族から、情報収集を行っており、ミーティング等でも話し合い、統一したケアができるようにしている。 (外部評価) 週に2回、移動バン屋さんが来てくれ、利用者はそれぞれにお好きなバンを選んで買えるよう支援されている。センター方式の様式を用いて利用者の情報を集めたり、アセスメントされている。	認知症がすすんでから入居に至るような利用者や、意思表示が難しいような方も多く、又、ご家族からも情報を得ることが難しいような方もある。日々の中から情報を集めることに努め、利用者を知ることが手掛かりにして、利用者主体のケアに取り組む際のさらなる拠り所とされてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所相談時、本人・家族から情報収集し、職員間で共有しており、入所してからも面会時に家族から聞き取りし、情報収集できるよう、努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入所相談時の、本人・家族から得た情報をもとに、日々の関わりからもさまざまな情報を見つけて行くようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・家族の要望を伺い、ご意見に沿う様、意見を尊重しながら、全体ミーティングでみんなの意見を出し合い、その人に合ったケアができるように計画し、実施している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所では、新たな取り組みとして、ケアカンファレンスに、ご家族も参加いただき、利用者ご本人の暮らしとケアについて話し合う場を作っておられる。ケアカンファレンス時には、飲み物のメニュー表から、好きな飲み物を選んでいただき、ゆっくり話し合いができるような雰囲気作りにも努めておられ、又、カンファレンスを行うことについての事業所の思いや意義を伝え、話し合っておられる。利用者やご家族の新たな情報が得られたり、暮らしへの意向の把握にもつながっている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>誰でもわかるように、日常生活の様子を、個別ケア記録に記入している。また、本人の訴えや様子を見て、スタッフ間で話し合い、ケアの見直しを行っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・家族の希望により、外出・外泊を行い、自宅などで過ごして頂く。帰所時には、その時の様子や注意点の連絡を取り合っている。また、希望に応じて、買い物等にも同行支援している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>定期的な民生委員の訪問、保育園児の訪問、地域の敬老会、敬老の家への参加、ボランティア(手芸・習字など)の受入れ、中学生の職場体験、ヘルパー実習の受入れ、地域消防署との連携など、積極的に関わりが持てるようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 定期的にかかりつけ医を受診し、体調管理に努めている。かかりつけ医との連携は密にし、上申なども行っている。また、月に一度は定期受診を受け、受診の様子を家族へ報告している。	
			(外部評価) 利用者の中には服用する薬を多く持って入居される方もおられるが、入居後様子を観察して、かかりつけ医と相談しながら調節し、ケア等でもカバーして落ち着いた生活ができるよう支援に努めておられる。医療機関に入院した場合でも、医師からの指導のもと、早期退院に向け取り組み、医療機関と連携しながら事業所での生活の中で療養できるよう支援されている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職員と共に、利用者の状態の情報を共有し、状態に変化があれば、早急に報告し、協力病院を受診している。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 協力病院、かかりつけ医と連携を取り、主治医や看護師と日頃から、相談できる関係作りをし、利用者が安心して治療できるように努めている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) かかりつけ医、協力医と連携を取り、気軽に相談できる関係づくりをしている。ターミナルなどが考えられる場合は、家族にも意向確認している。	
			(外部評価) 事業所では、「ご家族がここで見てもらってよかった」と思っただけのような支援を目指して、重度化、終末期の支援に取り組んでおられる。協力医療機関の医師は、在宅での生活を大切に考え指導してくださっている。施設長は、看護師資格を有し、又、救急救命士の資格も持っておられ、いざという時には、職員とともに対応して、利用者がぎりぎりまで事業所で生活できるよう支援されている。ご家族からは「いづいどんなことであってもいいよ」と言っていたらいい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			事故発生時、どうすればいいか、対応マニュアルを作成しており、確認を行い、すぐに医療機関と連携が取れるようにしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			定期的に避難訓練や火災訓練を行い、職員は災害にどう対応すればいいか、身につけている。地域消防署との連携もあり、協力体制にある。また、スプリンクラーも設置完了している。	
			(外部評価)	
			春と秋に地域の消防団やご家族も参加して避難訓練を行っておられる。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			プライバシーを損ねる事がないよう、言葉使いや言動に気を付け、職員間で話合っている。個人情報の取り扱いにも気を付け、記録するときにも注意している。	
			(外部評価)	
			事業所は、利用者へ「情けない思いをさせない」支援を目指しておられ、できていたことができなくて戸惑うような場面があれば、職員は共感し寄り添うことに努めておられる。	忙しいような時間帯等によっては、「ちょっと待って」「ちょっと座っていて」というような職員の言葉かけも見られる。この機会を活かして、利用者への言葉かけや対応について点検し、職員自身が気付いたことを持ち寄り、ケアの質向上につなげていかれてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			ケアの時にも、話しかけながら、思いを引き出すようにしている。また、表現できにくい利用者には、仕草などから理解できるよう、努力している。本人ができる事は、手伝っていただきながら、日常生活での、自分の役割、やりがいを見つけて頂けるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意向に沿って、可能な限り、その日の体調に合わせてながら、食事・入浴を行っている。眠れなかった時等は、日中居室で休む時間を取り、体調管理に気をつけている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服などは、できるだけ本人に選んで頂くようにしている。必要に応じて、更衣・着脱・整髪・モーニングケアはお手伝いさせて頂いている。また、理美容は本人が選択できるようにしている。行きつけの理美容室に行けるよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個人個人に合った食事形態を工夫し、嚥下しやすいようにし、誤嚥の予防に努めている。職員とできる範囲で、食後のテーブル拭き、お膳拭きなどをお手伝い頂いている。また、職員と一緒に食事をし、世間話などで、好みや意見を引き出している。誕生日会では、本人の好きな物をお聞きし、一緒に作って楽しんでいる。	
			(外部評価) 家族会を活かして、普段の食事をご家族も一緒に食べるような機会を作っておられ、「品数があるね」「刻んでくれているのですね」等、食事への感想が聞かれたようだ。おかずは、法人厨房で作ったものが届き、ご飯や汁物は、各ユニットで手作りされている。朝は、お味噌汁のにおいやネギを切る音等で目覚める方もおられる。昼食は早出の職員が利用者と一緒に食事をされ、又、夕食は、遅出と夜勤者が利用者と同じものを一緒に食べながら支援されている。目が見えにくく、耳が聞こえにくい利用者には、職員は、聞こえやすい方の耳側に座り、食事の内容を伝えながら食事介助をされていた。ご家族が食事時間に来られた際には、利用者ご本人の介助をお願いすることもあり、ご本人の状態をより詳しく知っていただけるような機会にもなっている。事業所では、今後「おやつレク」の回数を増やして、利用者の楽しみや出番を作ることを計画されていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が作った献立を使用しており、栄養バランスは考えられている。また、食事ごとに食分量・水分量をカルテに記入し、少ない時は、好きな物やジュースを摂取していただくようにしている。月に一度体重測定を行い、増減に注意している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声掛けを行い、口腔ケアを行っている。個人で歯ブラシ、はみがき粉を用意している。見守りを行い、自分で出来ない利用者は、職員がガーゼで拭くなど、介助を行っている。また、塩水でうがいをするなど、風邪予防もしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定期的に声かけし、誘導を行い、排泄チェックを活用することにより、排泄パターンを個別でつかみ、先取りケアに努めている。 (外部評価) 利用者の排泄をチェックして、個々のパターンの把握に努め、声かけや誘導してトイレで排泄できるよう支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) こまめに水分補給を行い、また、好きなジュースも飲んで頂き、体操や、散歩へ行くなど、体を動かす事によって、便秘予防に努めている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望の時間を伺い、入りたい時に入れるように対応している。また、毎日入浴できるよう、体調に応じて行っている。 (外部評価) 2日に1回、入浴できるよう支援されている。浴槽の高さに合わせた縁台を浴槽の淵に置いて、ご自分の力を使って浴槽で温まれるよう支援されている。入浴剤を入れて温泉気分を楽しまれることもあり、利用者はお湯の色がきれいなことに喜ばれ、長湯される方もおられるようだ。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の散歩や外の空気を吸う事で、活性化を図り、レクリエーション等で活動量を増やしている。また、足浴を行い、気持ちよく眠れるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服などの医薬品情報は、カルテに挿み、いつでも調べることができるようにしている。また、必要に応じて本で調べたり、看護師に聞く等している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物を畳んでいただいたり、お膳拭き、テーブル拭き等、本人のできることを手伝って頂き、身体能力に合わせ、役割を持って頂けるよう、関わっている。また、おやつレク等で、利用者の希望をお聞きし、好きな物を作るようにしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者のその日の体調に合わせて、散歩や外出を行っている。散歩や外出レク等で、近所の方と交流を図っている。花見や紅葉狩りに出かけたり、外食レクも行い、家族も参加されることもある。	
			(外部評価) 近くの「よしみいきいき館」の、しあわせの鐘を鳴らしに行かれたり、アイスクリームを食べに行くこともよくある。この一年間、「買い物レク」「ドライブレク」に力を入れて取り組まれた。外食する際には、職員が下見して、メニューを事前に決めて、当日は、利用者が待つことなく食事ができるように配慮された。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) おこずかい程度を預かっており、散歩の時や、買い物レク等で、ほしい物が買えるようにしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 定期的なレクレーションで作ったはがきで便りを出したり、暑中見舞い・年賀状なども出している。また、荷物等が届いた時には、利用者自ら電話をかけられるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 24時間換気システムを導入しており、また、定期的に窓を開け、換気を行っている。窓から海や山を眺めたり、季節感を味わって頂けるよう、花を飾ったり、貼り絵などを行っている。</p> <p>(外部評価) 敷地内の菜園の手入れや収穫等に出られたり、屋上で外気にふれるような機会を作っておられる。館内は、きれいに掃除をされており、床暖房が設置されている。海が見えるスペース「サンルーム」には、ベッドを置いておられ、日中、利用者が横になって休んだり、夜間自室で不安な方が寝る等に使用されている。又、「利用者に季節感を感じてもらえるよう」窓には、色紙で折った水仙の花等を飾っておられた。以前は、観葉植物等のみどりを共用空間内に配しておられたが、利用者が間違えて食べてしまうようなこともあって現在は置いておられない。ユニットによっては、洗面所に、フリージアの花が飾られていた。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者同士で楽しく過ごして頂けるよう、移動豊を置き、サンルームの窓から外を眺め、ながら、話して頂けるよう、空間作りを行っている。</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 家族に昔使っていた物や、好みの物を聞き、もって来て頂き、実際に使用していただいたり、飾って頂いたりし、安心して生活できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室には、それぞれ果物の名前が付けられていて、りんごやいちごのイラストも付け、目印にされている。居室から出たところにトイレがある造りになっており、夜間等でも使用しやすくなっている。布団は事業所で用意して毎週シーツ交換をされているが、ご自宅から布団を持ち込むことも可能となっており、入居時にご家族に伝えておられる。利用者の中には毛布を持って来られている方もみられた。窓から海や山が眺められる居室もある。居室で読書をされる方もいる。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 利用者にわかりやすいように、目の高さに貼り絵や、目印を置く等している。</p>	